

之を要するに、田中氏が上覆組織の細微なる變化をも精査せられた技倆は敬服にたへないが、惜むらくは氏の遺稿に記された事例だけでは、組織の看方も染色の方法にも未だ充分で無い點があつて、外套膜上覆組織の構造及び機能に於てアコヤガヒのみが他の貝類の場合と異なり、氏の所説の如き特殊狀況を示す事を立證するに足らないのみならず反對の事實も多數認められる様である。

以上故人の業績を紹介するに際し無遠慮なる批評を敢えてした非禮は私の深く恥づる所であるが、從來一向科學的な研究の出なかつた眞珠形成の原理に關し此論著を稿し、平靜眠れる如き湖面に一大石を投じて一波萬波相次で起ることを期待せられた田中氏のことであるから、在天の靈は私が學問上の眞理を求むる志から提出する此質疑を咎むることなく、畏友寺尾博士も亦余の此所爲を恕諒せらるることと信ずるのである。

(川村多實二)

實驗用小動物(二十日鼠、鼠、天竺鼠)の 靜脈内に注射する一新法

LE GUYON, R.-F. (1931): Injections intra-veineuses par la dorsale de la verge chez les petits animaux de laboratoire (souris, rat, cobaye). *C. R. de la Soc. de Biol.*, 107 (22): 1001-1002.

二十日鼠、鼠、天竺鼠の靜脈内に色々の物質を注射するは、陰莖背靜脈¹⁾へする方法を推賞してゐる。

天竺鼠ならば、助手に把持させるか、又は厚紙製の圓筒の中に動物をおしこみ自由に動けない様にして體の後部のみを圓筒から出してやる。二十日鼠、鼠ならば、板に縛りつけてもよいし、上記の様な圓筒を用ひてもよい。包皮から陰莖を裸出させ、左手の拇指と食指ではさんで引きのばしながら注射する。注射針は、齒科醫用(“de dentiste”)と稱する、極く細く且短いものを用ひ、徐徐に注射する。

この方法によれば、從來の天竺鼠の頸靜脈、二十鼠及び鼠の尾の靜脈に注射する方法よりも、成功率高く、頗る短時間で注射が出来る。(竹 脇 潔)

偽妊娠状態にある天竺鼠の腦下垂體前葉

DESCLIN, L. et BROUHA, L. (1931): Les modifications histologiques de l'hypophyse au cours de la pseudogestation chez le cobaye. *C. R. de la Soc. de Biol.*, 107 (21): 805-806.

1) 陰莖背靜脈に、表面からの深淺により、veine dors. prof. 及び v. d. sup. と呼ぶ二脈がある。著者はそのいづれであるかを記さぬが、記事より察するに後者であらう(抄録者註)。

牝天竺鼠に於て、性週期中の適当な時期、即ち、排卵後間もなく、(1) 子宮粘膜を刺戟して剝落膜を形成せしめるか、又は(2) 子宮を除去して偽妊娠状態を誘導した。いづれの場合にも、以後の性週期は停止し、黄体の寿命が長くなり、乳腺が発達して來た。

妊娠時以外の平常時の脳下垂體前葉では、細い索状組織が網目をなし、その網目の所には、無染色性の細胞と染色性の細胞(エオシン嗜好性細胞及び鹽基嗜好性細胞)が見られる。妊娠時には、網目が密になつて泡状となり、泡の中にあたる所は、エオシン嗜好性の所謂妊娠細胞によつて殆ど占領せられてゐる。

(1) の手術後 12 日、(2) の手術後 60 日を経て調べた動物の脳下垂體前葉は、妊娠時特有の構造を示した。故に、胎兒、胎盤及び子宮はかかる前葉の變化に關係がなく、卵巣に於ける妊娠及び偽妊娠に共通な變化が、脳下垂體前葉の變化と關係があるものと思はれる。(竹 脇 潔)

雜 錄

新 著 紹 介

OSBORN, H. F. (1930): *Forty-two Years of Research, Observation and Publication (1877-1929)*. xii + 160 p., Portraits. New York: Charles Scribner's Sons. \$ 1.50.

本書は過去四十二年間に於けるフスボン教授の研究業績を記せる自傳なり。「本書は青年男女にして科學研究に従事せんとするものに向つて編したるものにして其の主目的とする所は深く且つ廣く事物を研究するの利あるを指摘せんとするものなり」と。博士の論文發表の理由、時機に關する所説は簡單なれど多數學生の多とする所なるべし。博士の著八百一個に上る。其等は 1817 年より年代順に表示しあり。蓋し科學研究に志す學生の讀んで刺戟を受くこと多き書と見るべし。(工 藤 六 三 郎)

HOWELL, A. B. (1930): *Aquatic Mammals. Their adaptations to life in the water*. xii + 338 p., 54 illus. Springfield, Illinois, U.S.A.: Charles C. Thomas. \$ 5.00.

ホプキンス大學講師ハウエル氏は既に水棲哺乳動物に關し數多の著書を公にせしが本書に於て平易に一般讀者向きとして其の苦心研究の結果を記せり。十二章に亘り著者は游泳の状態、外状態、知覺、口、鼻、頸頭蓋骨、胴、尾、肢等に亘りて記述せり。方則主義等をよく批評せり。加之多數の原圖を含む附圖を挿入せり。脊椎動物特に哺乳動物學學生に有要の書と云ふべし。例により製本美なり。

(工 藤 六 三 郎)